

2009 ぐんだいで遊ぼう！ in 太田 「ものづくり体験・おもしろ探検」開催

工学系技術部では地域貢献委員会が中心になり工学部太田キャンパス（テクノプラザおおた内）において初めて“ぐんだいで遊ぼう”を行った。

概略は次の通り

- ・平成21年12月19日（土）13:00～16:30
- ・太田市内の小学校高学年（4, 5, 6年生）
参加者数：43名
- ・テーマは
 - ①身近の化学
 - ②たまねぎで染めよう！
 - ③ホバークラフトをつくろう
 - ④ペットボトルロケットを飛ばそう
 - ⑤パソコンの分解と組立体験
 - ⑥手作りモーターに挑戦！
- ・後援は、工学クラブ、太田市教育委員会、財団法人群馬大学科学技術振興会、日本機械学会群馬ブロック、一般財団法人地域産学官連携ものづくり研究機構
- ※ この活動は群馬大学平成21年度地域貢献事業（社会貢献重点経費）より助成金の交付を受けて行ったものです。

開催時期が年末だったことに加え、新型インフルエンザの大流行ということもあり、募集人数の約半数となってしまったが、各テーマにおいてスタッフが説明を工夫してくれたおかげで、ほとんどの参加者から“楽しかった”、“わかった”以上の意見を頂くことができた。

本イベントに太田市教育委員会関係の見学者が約40名あり、活発に質問等が行われたことから成果を得られて頂けたものと自負する。



「AED（自動体外式除細動器）を用いた救命講習会」実施

桐生事業場安全衛生委員会主催による「AED（自動体外式除細動器）を用いた救命講習会」が11月25日（水）13:30～16:30、工学部体育館柔道場で教職員を対象に開催された。

近年工学部キャンパス内で、各種イベントが多数開催されている。多数の来学者及び授業・業務中に心肺停止等の急病人が発生する不測の事態に遭遇したとき、学内に設置されたAEDを有効に活用できる様、迅速な対応が求められる。今回も桐生市消防本部にご協力戴き、救命士3名を講師に迎え、心肺蘇生法、AEDの使用方法等、参加者25名が2～3人でチームを組んで本番さながらの救命実習を行った。この講習会で得た知識と実習で救命に繋がれば幸いである。尚、この講習会は今

回で3回目を迎えたが、来年度も予定している。未受講者は是非参加願いたい。



第8回工学系技術部技術発表会報告

去る9月3日(木)第8回工学系技術部技術発表会を開催しました。

本発表会は工学系の技術職員・技術補佐員が日々の業務や研修で得た知識と経験を発表し、意見交換を通じて技術的交流と資質の向上を図る目的で毎年開催されているものです。昨年度より群馬高専や本学医学部からも発表をいただき、他大学・他部局からの聴講参加を含め、より広い範囲での技術職員の交流も目指しております。

参加者は工学系の技術職員・技術補佐員、医学部技術職員、本学教員・事務局だけでなく、近隣の国立大学、高等専門学校、高エネ研などからの参加者を合わせて72名となり盛況の内に執り行うことが出来ました。

本年度は特に本学医学部から技術発表と多数の聴講参加をいただき、昼食会などでは積極的に『技術職員』としての意見交換を行うことが出来ました。今まで余り交流の無かった工学部と医学部の技術職員の連携に向けた一歩となればと思っております。

特別講演では本学教員である石川教授と細川講師に快諾していただくことが出来ました。石川教授の講演「電気自動車、ハイブリッド車」では、特に電気自動車について環境面での利点や基本的な原理。未来像について解りやすく講演していただきました。

細川講師の講演「コンピュータによる“びっくり”地図活用」では、特に情報による地図変形や情報工学科の講義の一環としても取り入れられた『地域力による脱温暖化と未来の街-桐生の構築』の展開などについて講演していただきました。

発表会後に行われた懇親会には50名の参加があり、発表内容についての更なる意見交換や日常業務のことなどを話題として参加者相互の親睦を深めることが出来ました。特に工学部長には多忙な中で時間を割いてご挨拶をいただき誠に感謝しております。

最後に、本会の開催にあたってご協力いただいた全ての方に厚く御礼申し上げます。



技術部全体研修報告 ー外部講師を招いてー

9月18日(金)9:30~11:45、総合研究棟506教室において、干川隆一氏(労働安全衛生コンサルタント)を講師に招き技術職員全体研修が行われた。この研修は技術職員のスキルアップを目的に、技術部で独自に企画されたもので、今回は技術職員共通的業務の一つである労働安全衛生業務(「薬品を中心とした安全管理」、「VDT (Visual Display Terminals) 作業を中心としたデスクワークの安全管理」の2テーマ)について取り上げた。なお、今回の研修にあたっては、技術職員の通常業務に配慮して任意参加としたが、24名の技術職員の参加があり、参加者全員、熱心に講演に聞き入っていた。

干川氏の講演においては、「法律を杓子定規に当てはめるのではない、現場に合った労働安全衛生」の重要性に触れられていたのは印象的であった。

今回のような、安全衛生管理において専門家の視点に触れる機会は多くはない。技術職員がかか

わる安全衛生管理に対して良い刺激となった。次回以降の研修の企画においては、今回の反省点を踏まえ、さらに有意義なものになるよう検討したい。

